

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 1 月 20 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103300
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズガーデン
所在地	鹿児島市下荒田二丁目34-15 (電話) 099-213-0033
自己評価作成日	平成26年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目48番13号
訪問調査日	平成26年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が毎日を生き生きと楽しいと感じる事が一つでも多くなる様にと考え、個々の出来る力、解る力をしっかりと、生かせる様に日々のケアを実施する様にしている。また、病気や怪我の予防には特に注意し、職員全員で個々の情報を早目早めに共有出来る様に申し送りや連絡ノートの活用にも心掛けている。主治医との連携にも心掛け、細めな報告、相談を行っている。ご家族や地域の方々との連携も重要と考え利用者に対して同じ方向を向いて接して行ける様に日頃からコミュニケーションを十分に取れる様に、話をする機会や時間を大切にしている。グループホームの役割をしっかりと自覚し、地域への情報発信を続けながら、グループホーム全体の役割の向上に努めて行きたい。

たくさんの笑顔と安らぎ、居心地の良い場所や時間、優しさにあふれた地域への出入りといった理念を掲げ、職員全員が理解し、利用者に対しては理念を具体的に意識してケアに取り組んでいる。運営推進会議や家族会、毎月のホーム便りにて、認知症の理解や医療の情報など発信し、地域との関わりを密に持ちながら相互交流を図っている。また、会議室を地域の方々の趣味活動の促進や会合のため開放している。法人が医療機関であり、主治医や他医療機関との連携が図れ重度化した場合や急変時の迅速かつ適切な対応が円滑に取れるため家族も安心につながっている。職員は世代間の人間関係も良好で職場の雰囲気も良いため、定着率も良く活気があり、一人ひとりが明るく快活である。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着の意味合いをよく考え職員全員で考えた。管理者と職員はケアする上での指針とし実践につなげる様に努めている。	「たくさんの笑顔と安らぎ、居心地の良い場所や時間、優しさにあふれた地域との交流」などの理念を職員全員で考え、日々のケアの指針として毎日朝礼や月1回のカンファレンスなどで唱和し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事等に積極的に参加している。地域の方もボランティアとして清掃や利用者とのふれあいに来て頂いている。	施設長や管理者は、町内会役員（福祉部会）として地域行事などに積極的に参加している。また、事業所1階の会議室を地域の方々が集うビーズ教室や会議室として提供し各階の利用者との交流も図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域での勉強会で認知症に関する話をさせて頂いたり、月1回発行のガーデン便りで介護に関するアドバイスを入れ町内会の回覧で見て頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で施設の現状や問題点を報告し話しや意見を伺いサービス向上に生かす様に努めている。	運営推進会議は定期的開催されているが、会議の年間予定表を年度初めに各関係者に配布し、さらに開催2週間前には議案（内容）も配布してより活発な意見交換ができるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所の事務手続きや介護保険に関する諸、相談等を行い、指導及びアドバイスを受けている。	市担当者とは、電話や面談をして事業所の状況や制度の相談、事務手続きなどの指導や助言を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関はオートロックになっているが街中の施設と言う事で「安全・安心」と理解して頂いている。拘束に至らない様に勉強会で繰り返し取り上げ理解に努めている。	半年に1回は、身体拘束についての勉強会を開催し日々のケアについて確認するとともに職員全員が身体拘束について正しく理解できるよう研鑽している。事業所には、訪問販売やホームレスなど不特定の人が訪ねて来るため、安全上玄関は施錠しているが、本人や家族の十分な理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で理解を深めたり職員間でストレスが溜まらない様に何でも話せる雰囲気作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度は勉強し理解に努めている。制度を利用している方はいないが必要に応じて活用していきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書に沿って解かり易い言葉や事例を用いて理解して頂いた上で契約している。入院があった時は途中で数回、状況確認し解約の事も説明して言っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時やケアプラン変更時に意見や要望を伺いスタッフで話しあったり運営推進会議で地域の有識者の方々にも意見を伺い運営に役立てている。	家族会では、事業所の運営について意見や要望を拝聴しアンケートも実施している。また、毎月配布のホーム便りも活用している。面会に来られた家族とは直接話しを聞くようにし、意見や要望はスタッフ会議で議論し検討した後運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議や朝夕の申し送り時に意見を聞く様にし、実施する様に努めている。	職員はその都度管理者に要望や相談をしているが、朝夕の申し送りや全体会議時も活発に意見を出し合い、サービスの質の確保に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の努力や実績、勤務状況を把握し、待遇を含め環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術は外部研修や施設内の勉強会及び現場で行い向上に努めつつケアは気持ちが大切なので社会人としての基本や道徳も合わせてアドバイスし、お互いに人間的成長が出来る様に努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は当グループホームが協議会に加入し交流や勉強会に参加する事に理解がありサービス向上の取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人及び家族や関係者と話し合いを持ち、状況をしっかりと把握し安心して入所が出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望や不安を受け入れる様にしている。出来る限り話をし本人に対し家族と施設が同じ方向性を持って考えられる関係作りを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている事をきちんと出来る様に努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、知っている事を引き出し気付ける様に努め、個々の役割や生きがいを維持出来る様にしている。職員も暮らしの知恵を学び互いに居心地の良い関係となる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と共に支えて行く事を確認しつつ本人にとっての家族の重要性について理解して頂き共に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で近所付き合いのあった方や若い頃の職場の同僚の訪問やよく利用していたお店へ出かけたりし、馴染みの関係が途切れる事の無い様にしている。	友人の定期的な訪問があったり、墓参りは家族と外出できるよう勧めている。いきつけの美容院にも定期的に出かけて馴染みの関係性が途切れることがないように支援している。また、入所後に馴染みになったスーパーや町並みを散歩するなどの支援も続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で気の合う人同志だけでなく仲間入りが苦手な人も職員が間に入り孤立する人がいない様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ適切な医療や福祉機関を紹介している。家族で高齢の方も多いので定期的に話相手や相談相手として連絡される方もおられる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望や意向を把握する様に努めている。意思伝達の難しい方は表情や仕草等から理解する様に心がけ、職員全員が情報を共有し実現できる様に努めている。	利用者ごとに担当者割りしており、思いや意向の把握は月1回話し合いをして職員全員で共有している。意思表質困難な方などは、本人の表情やしぐさ、日々の行動、会話の中でその思いを汲み取るよう努め今できることを最優先している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで資料を見たり本人や家族から情報を得る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で個々の職員が気付いた事を情報交換し全職員が共有し把握する様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ちや考え方を最優先し家族や関係者も含め、話し合い計画、立案している。状態変化時にはモニタリングし、その時一番良いと思われる方法を話し合い計画し作成する。	利用者の視点にたって自分らしく暮らしていくために本人の意向を職員全体が共有して本人本位に検討し、設定した期間での見直し、変化が生じた時には、モニタリングに基づいた介護計画の見直しをして家族に説明のうえ交付している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は時間を追って日々の生活状況が解かり中核、周辺症状が起こった時の状況や対応の仕方等を記録してあり、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	諸手続きの代行や要望に応じ外出や買物の付き添いをしてい。また、心身状況の変化があった時は必要に応じて専門医の受診も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に暮らせる様に消防署や警察等と連携している。また、民生委員や地域の方を含めボランティアに来て頂いたり、地域の行事にも参加させてもらい交流も図れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設と同系列の病院の医師が主治医である。定期検査の結果や状態変化があり受診した時は本人や家族に説明している。専門外の疾病については、ご家族と本人の希望を優先し他の病院に受診して頂いている。	主治医に、隔週の訪問診療を受け診察や検査など受ける利用者もいる。外来を受診している利用者もあり本人や家族の希望を大切に利用者本人に支援している。また、事業所は他科受診も積極的に支援している。内服薬によっては苦くないようオリゴ糖でコーティングするなどして服用してもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設担当の看護師がおり利用者の体調変化や服薬状況等を必要に応じ報告する事で主治医へも情報を伝えやすく、早めの指示を受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院へ様子を見に行き励ましの声かけをしている。主治医や病棟の看護師と連携を取り、相談し早く退院出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の方針を説明し同意書をもらっている。また、その様な状態になってきた時は家族と話し合いを重ね事業所で出来る事を説明しぎりぎりまで支援していく方針を全スタッフが共有し行っている。	重度化した場合や看取りについては、入所時に別紙「同意書」にて説明のうえ事業所でできることを十分に説明している。看取りについては、主治医や家族などと相談のうえ医療機関や介護施設とも連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に実技を交えた研修を行い実践に活かせる様に努めている。同時に申し送りやカンファレンスを通し個々の状態を確認し把握する事で事故防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をしている。避難経路や連絡網などのマニュアルがあり掲示している。火災時には地域との協力体制ができている。	昼夜問わず避難できるよう消防署立会いの訓練、自主訓練を年2回実施しており、昨年は自主訓練の回数も増やした。地域の協力体制もあり、消防職員からは毎回熱心な指導や助言をいただき職員全員で共有している。台所床下収納庫には、備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を踏まえその時の状況により声かけの工夫をしている。トイレ誘導時や入浴時など密室でのケア時は特に気をつけている。	年1回の勉強会を研修計画に位置づけ自己研鑽し、職員は一人ひとりの誇りやプライドを大切にしている。利用者の名前の呼び方は、その方の好みにも配慮している。排泄や入浴時の対応や声かけにもそれぞれの性格や状況を踏まえ工夫しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より本人の希望を聞き出したり感じ取った上で、本人が決定できる様に声かけしている。意思表示の困難な方にはジェスチャーや筆談等で理解しやすい方法で決定出来る様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事、就寝と一人ひとりの生活のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着たい服を選んで頂いたり整容時に化粧水をつけたりとしている。自力で出来ない方は支援し外部の人が見てもおかしくない身だしなみに心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を聞いて献立に取り入れたりにしている。利用者には準備、味見、片付け等を出来る範囲でして頂いている。また職員も一緒に食べる事で楽しく出来る様に支援している。	献立は、希望を聞いて週1回作成しており、差し入れがあるとその日の献立が変更になることもある。野菜を刻んだり、もやしの根をとるなど調理の下ごしらえ、味見や片付けなど手伝いをもらっている。誕生日には家族と外食したり、手作りケーキでお祝いしている。また、利用者と一緒にスーパーに買い物に行き食事が楽しみになるよう職員全員で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分は摂取量と時間が解かる様にチェック表に記入している。咀嚼や飲み込みの状態も見て食事の形態や献立内容を変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回食後は口腔ケアをしている。就寝時に義歯は洗浄液につけ清潔を保つ様にしている。口臭や舌苔がある時は専用のブラシで磨いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々のパターンを把握している。支援方法についてはカンファレンスで具体的に決め職員全員が統一した支援を行っている。	排便のリズムが整うようサツマイモやきなこ牛乳、食物繊維など勧め腹部マッサージやホットパックにて薬に頼ることがないようにしている。尿失禁があってもさりげなく声かけし誘導して個別対応しプライバシーにも配慮している。入所時、オムツだった利用者が、布パンツに尿取りパットを使用するなど改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼り過ぎる事の無い様に食材の工夫や適度の運動を心がけ実施している。マッサージやホットパックも併用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の計画はあるが、その日その時の状況を考慮し、変更も自由である。温泉好きの方はご家族の協力もあり、よく出かけている。	入浴は週3回計画しているが、利用者の状況など考慮して変更するなど柔軟に対応している。また、浴槽の出入りが困難な利用者であっても二人介助で移動するなど可能な限りお湯に浸かり入浴が楽しめるよう支援している。家族と一緒に温泉に出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠時間や本人の状況により臨機応変にいつでも休息出来る様にしている。夜間は良質な睡眠がとれる様に穏やかな声かけやホットミルク等での水分摂取も工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の処方箋を参照し個々の疾病治療に必要な薬名、効能、副作用等覚えている。状態変化がある時は主治医に報告し早めの対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々で出来る事を見極め役割や楽しみを持ち生活出来る様に家事等の分担をし職員も一緒に行っている。音楽やテレビの視聴や好物を食事やおやつに取り入れ楽しみとなる様考えている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	誕生日には職員と外食したり、毎日の買物では一緒に出掛けたりする。季節毎の外出行事には家族も参加されたり個別で旅行や日帰りで温泉等にも出掛けている。地域の行事にも誘いがあり、楽しく参加している。	日頃は、近所を散歩したり職員と買い物に出かけるなど支援している。春・秋は普段はなかなか行けない所に皆でドライブがたら花見などしている。家族によっては、温泉や旅行に出かける方もおられる。また、地域の行事の誘いには、利用者と職員が一緒に参加し地域と交流している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に応じ所持している方もいる。時々、近くのコンビニに出掛け、おやつ等の購入をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎月の施設からのお便りに一筆添えて家族へ送ったり、特に遠方に居る家族には手紙や電話での支援をお願いし、実施出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所の混乱が無い様に名札や目印になる飾り物を付け解り易い様にしている。リビングや玄関先に季節の花を飾ったり、廊下や居室の壁に利用者の製作した作品や写真を飾り楽しんで見てもらっている。	玄関には、季節の花が生けてあり、居間にはソファとテレビが配置され、食堂の席からも視聴できる距離間である。採光も取れオープンキッチンのため職員と視線が合うよう設計されており、生活感漂う空間になっている。壁には、手作りの暦、折り紙で作成した作品や行事や外出先での利用者の写真が掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置いて好きな番組を見たり、テラス側の席で日光浴をしながら話が出来そうな場所がある。また、居室で好きな音楽を聞いたり読書をし、一人で過ごせる工夫もしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ラジオや時計小物等、馴染みの家具等を使用。家族や好みの芸能人の写真が飾ってあったり、仏像を置いて毎日、お祈りしたりと安心して穏やかに生活出来る様にしている。	それぞれの利用者の個性的な部屋になっており、慣れ親しんだ家具や調度品、仏壇や家族の写真など飾られている。窓は換気のための開閉は可能だが安全も保たれている。加湿器は家族に相談のうえ各部屋に備えてあり活用している。特殊寝台、歩行器などレンタルしている利用者もある。ナースコールも設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事、解る事の情報に職員が共有する様に努めている。建物の所々に手すりを設置し、自力で移動がしやすい様にしたり、掃除や家事も出来る範囲でされている。見守る事で事故の無い様に気配りしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない